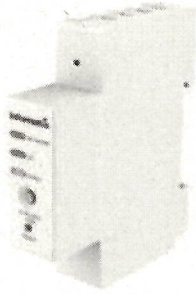


センサーで高齢者見守り

沼田町営住宅 家電使用で病変把握



【沼田】空知管内沼田町は、配電盤内に取り付けた電力センサーII写真、同町提供IIで、住民の活動状況が1分単位で分かる「見守りシステム」を、建設中の高齢者向け町営住宅1棟5戸に導入する。町によると、1分単位で分かるのは全国的に珍しく、別居家族が親の生活状況を把握し病気や認知症の兆候をつかめる。

電力センサーは縦15センチ、横10センチで幅は数センチ程度の大きさ。東京電力グループのエナジーゲートウェイ(東京)が開発した。冷蔵庫の開閉や炊飯器・掃除機の使用など、家電別に使用時間を1分単位で計測。家族はスマートフォンアプリを通じ、睡眠時間や掃除・洗濯などの活動

状況をリアルタイムで確認できる。生活リズムの変化や食事回数の低下から、病気の兆しが分かるという。

町は医学の知見をまちづくりを活用する奈良県立医科大学MBIT研究所(奈良県)などと連携。2020年度に町内の高齢者モニタ―30世帯の協力を得て、専用の腕時計で血圧や心拍、歩数などを記録。同時に電力センサーを設置した。21年度からは計測作業がいらぬ電力センサーのみで実証実験を続けている。高齢者向け町営住宅5戸の募集は、7月28日に締め切った。募集枠以上の応募があったという。入居開始は10月を予定している。

見守りシステムは病気手前の「未病」を察知できることから、沼田町産業創出課は「町の医療費削減に貢献できると考えている。沼田町から全国に広がってほしい」と話している。

(佐藤大吾)